

連携

第83号

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



指定難病である炎症性腸疾患の患者受け入れについて

内科医長 半田 智之

2021 年度に東北大学
消化器内科より栗原中央
病院へ赴任となりました
半田智之と申します。専門

は下部消化管であり、昨年度より当院で炎症性腸疾患（IBD）の専門外来を開設し診療を行っております。

IBD は主に潰瘍性大腸炎とクローン病に分類され、いずれも厚生労働省が定める「指定難病」となっております。IBD の本邦の患者数は増加の一途を辿っており、潰瘍性大腸炎では約 22 万人、クローン病では約 7 万人と推定されています。特に潰瘍性大腸炎は年間約 1 万人のペースで増加しているとも言われており、もはや希少疾患とはいえず、common disease になりつつあります。その一方で近年 IBD 治療薬の進歩も著しく、5-ASA 製剤、ステロイド、チオプリン製剤といった基本治療薬に加え抗 TNF α 抗体製剤、抗インテグリン抗体製剤、抗 IL12/23p40 抗体製剤、JAK 阻害薬などの生物学的製剤、低分子化合物が多数開発されております。また、チオプリン製剤の副作用を予測可能な

NUDT15 遺伝子多型検査、疾患活動モニタリングとして使用可能な便中カルプロテクチンや血液マーカーの LRG などの新しい臨床検査も登場しております。

当院ではここ数年 IBD 専門医が不在であったため専門的治療が必要な患者様は近隣の大崎市民病院や磐井病院へ紹介していたという現状がありました。しかし、昨年度診療体制の整備を行い、当院でも上記の様な最新の治療薬、検査法が全て使用可能となり、IBD の専門治療が可能となりました。また、東北大学病院消化器内科、総合外科と密に連携しており、手術が検討される重症例や複雑な腸管合併症を有する症例に対しても適切な診療を行っております。

IBD 専門治療の紹介はもちろんのこと、診断に迷われるような腸炎や腹痛、下痢、血便、体重減少といった症状がある患者様がいらっしゃいましたらお気軽に当院までご紹介頂ければ幸いです。IBD 患者が増え続ける中、県北を中心とした地域の皆様へ貢献できるよう努力を続けて参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。

栄養管理室の紹介

スタッフは、病院側が管理栄養士 5 名で給食管理は全部委託 21 名で担当しています。病院側管理栄養士は、各病棟担当により栄養管理計画書を作成し患者の栄養管理を考えています。



☆栄養食事指導☆

栄養食事指導は、外来及び入院個人食事指導・集団指導を実施しています。さらに、外来個人指導では、かかりつけ医の依頼による栄養食事指導も実施できる体制も整えています。

☆糖尿病教室☆

集団指導は、糖尿病教室の開催を計画し実施しています。毎週水曜日の午後 1 時 30 分から 1 時間実施しています。第 1 週目担当内科医師内容は「糖尿病とは？」理学療法士「しなやかに体ない、気持ちいい運動」、第 2 週目担当内科医師は「低血糖とシックデイ」薬剤師「糖尿病のくすりのお話」、第 3 週目担当



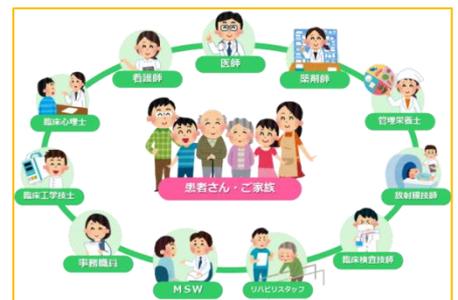
看護師は「なぜ糖尿病患者さんにフットケアが必要なのか」管理栄養士「食事療法 どうすればいいの?」、第 4 週目担当内科医師は「本当に怖い糖尿病!」歯科衛生士「糖尿病と歯周病」、第 5 週のある月は担当内科医師「糖尿病とは?」管理栄養士「食事 Q&A」で開催しています。

☆糖尿病患者会「薬師の会」☆

糖尿病療養チームの一員として糖尿病患者会「薬師の会」の運営をしています。患者会は、患者・スタッフと合わせて 35 名です。

☆栄養サポートチーム☆

NST（栄養サポートチーム）の一員としても活動しています。NST 専任管理栄養士を中心に患者の栄養管理を考えています。



☆給食管理☆

給食管理(フードサービス)は、日清医療食品が毎日の献立作成から調理、食器洗浄まで担当しています。毎月行事食を実施し患者さまから「おいしかった、ありがとう」の声をいただきスタッフもよりよい給食の提供に励んでいます。

今後とも、様々な角度から患者さまの「食」に関わり、サポートしていきますのでよろしくお願いいたします。



地域医療連携室の紹介

今年度より、入院前支援・患者相談窓口を担当するスタッフを迎え、新体制となりました地域医療連携室を紹介します。

◎外来診療予約業務

他医療機関から当院への外来診療・検査（MRI・CT）予約業務を行っています。当日受診希望がある紹介患者さまについても、受診調整を行います。また当院から他医療機関への外来診療の予約業務を行っております。その他、診療情報提供書の管理、地域の医療機関別紹介患者件数などの各種統計に関する業務も行っています。



◎患者相談支援窓口

疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び入院上の不安等、さまざまな相談をお伺いする窓口を設置しています。ご相談内容によって相談窓口と各部門が連携して支援していきます。



◎予約センター・入院前支援

外来患者さまのCT/MRI検査、内視鏡検査における説明、また予約入院患者さまに対し、入院時に必要な書類や注意点の説明を行っています。入院前支援の対象となる患者さまに対しては療養支援計画書を作成し、安心できる入院につなげていきます。

◎退院支援・医療福祉相談

患者さま・ご家族さまの様々な相談に対応しています。退院支援は入院早期から退院に向けた問題点や課題などについて話し合い退院支援計画書を作成します。退院後の生活において地域の様々な保健福祉機関と連絡調整を図りながら支援をしています。



◎がん相談支援・難病相談支援

がん相談支援窓口、難病連携窓口を設置しており、患者さまとご家族さまの治療上の不安や悩みに相談員がお話を伺い、必要に応じて医師・認定看護師・栄養士・薬剤師など専門職者と連携し、様々な悩みや疑問にお答えしています。患者さま、関係機関の皆さまが利用しやすい窓口になるよう心掛けています。



今後とも院内外問わず、多職種の方々と連携を図り情報共有しながら、患者さまが安心して診療できるように努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

がんサロン「サロン de よらいん」開催しました

令和4年8月2日（火）、新型コロナ感染予防のため休止していたがんサロン「サロン de よらいん」を8か月ぶりに開催しました。感染拡大が言われている最中でしたが、感染対策として飲食は行わず、短時間でソーシャルディスタンスが取れる講義室を会場に開催しました。参加者のほか、以前よりボランティアでご参加頂いていた高橋臨床宗教師、院内からは木田副院長や作業療法士の参加もあり、少人数ではありましたが楽しい時間を過ごすことができました。

まだまだ定期開催は難しいと考えており、感染状況をみながらがんサロンを継続し交流の場を作っていきたいと思っております。



《お知らせ》

以下の疾患・診療科は、予約診療となっております。ご紹介の際は地域医療連携室へFAXにてお申込み下さい。また当日受診が必要な患者様につきましても事前にお問い合わせください。



当日の診療状況、検査、救急対応等で診察の順番が前後することやお待たせする時間が長くなる場合があります。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

地域医療連携室

内 科	○消化器疾患 ○糖尿病疾患 ○脳神経内科 ○心療内科
外 科	○血管外科 ○甲状腺外科 ○乳腺外科
整形外科	○肩外来 ○スポーツ外来
眼 科	○眼科



○外来予約に関するお問い合わせ

TEL0228-21-5335 FAX0228-21-5336

○その他のお問い合わせ

TEL0228-21-5330（代表）

【編集後記】

お盆が過ぎ、夏も終わりだな…と思うと同時に朝晩の涼しさが、秋を思わせる季節になりました。



今誌では、久しぶりに当院の部署紹介を掲載しました。次号も掲載予定ですので、新しい顔ぶれをお楽しみに！

今回も最後までご一読いただきありがとうございました。

栗原市立栗原中央病院

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地

（代表）TEL：0228-21-5330

FAX：0228-21-5350

地域医療連携室

（直通）TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336

<http://www.kurihara-central-hp.jp/>